

2011 年度 事業報告書

特定非営利活動法人 ハート・オブ・ゴールド

1 事業実施の方針

被災地や紛争地及び開発途上国の子ども達、障がい者、貧困層の人々に対して、スポーツや教育、その他の活動を通じて自立につながる事業を行い、苦境に立ち向かう人々や子ども達が人生にチャレンジするための「希望と勇気」を持つことが出来る機会創造に寄与することを目的とする。特に、途上国の人々が自分達のかかえる問題を自らの力で解決していけることを目指し、彼らの視点に立って、彼らと共に人材育成に力を注いでいく。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業概要	事業内容	実施日	実施場所
大会等の運営協力と 対地雷被害者への 義手・義足支援他	・アンコールワット国際ハーフマソン 特別運営協力	アンコール遺跡群を巡る AIMS(国際ロードレース協会)公認のチャリティーマソンで 16 回大会を迎えた。前々日にはプレイベントとして遺跡で現地の子ども達とのウォーキング & レクリエーション交流を開催。 58 の国と地域から 5,424 名が参加(ランナー: 5,230、ウォーカー: 194)。日本から専門指導者や一般・学生ボランティアも多数参加。	12/2 ↓ 12/4	カンボジア (シェムリアップ)
	・対地雷被害者への義手・ 義足などの支援	アンコールワット国際マソン大会から、6 団体を通じて、義手・義足支援、障がい者、子ども達、貧困者支援等の活動に使用 (本年 US\$19,400、第 1 回からの支援総額 US\$275,017)	11 月 ↓ 3 月	カンボジア
	・エイズ予防教育	現地 NGO と協力してエイズ予防の広報活動を 12 月 4 日に実施	12/4-5	シェムリアップ
被災地、紛争地にお ける生活者の自立支 援事業	・日本語教育	・公立小学校内で HG むつみ日本語教室を開校(4 クラス約 70 名) 【日本語補助教員、日本での研修(7 月～11 月)】	4 月 ↓ 3 月	カンボジア (シェムリアップ)
	・ハート・ベアレンツ(里親) ・職業訓練建築事業	・養護施設運営事業(7 名入所、1 名退所、3 月末現在 16 名) ・ New Child Care Center 内衛生管理棟完成(5 月)		宮城県 福島県
	・3.11 子ども animo プロジェクト	・緊急支援として物資支援、現地でのボランティア活動などを実施 ・復興支援として、学校の教材・教具支援、サマーキャンプ、絵画、学校園など支援、被災学校と支援学校の交流の推進他 ・現地を知る報告会、活動報告会、スタディツアーなどを実施		
障がい者スポーツの振 興、障がい者と健常者 のスポーツ交流の促進	・カンボジア障がい者・障がい者 ランナーの支援	・カンボジア障がい者陸上連盟の運営支援 ・アンコールワット国際ハーフマソンに障がい者ランナーを招聘(73 名) ・障がい者の自立支援	4 月 ↓ 3 月	日本 カンボジア
ランナーズエイトの促進 国内外におけるランニ ング大会、スポーツイベ ントの主催・後援・協力	・スポーツイベント事業・チャリ ティーマソン・チャリティーデ イナー・バザー・音楽会	・国内のチャリティーマソン・ス ポーツイベントなどを実施 ・ウランタイム・チャリティー デー他を実施 主催・後援・協力 実績: 16 回	4 月 ↓ 3 月	日本
その他、この法人の 目的を達成するため に必要な事業	・小学校体育科教育振興事業 (JICA 草の根技術協力事業) (岡山市 CLAIR 事業)	・カンボジア体育科教育普及のための組織体制を整備し、体育科教育普及のための人材を育成する。具体的には 中央/ 地方教育行政官の訓練・支援を通じて双方向的な情報共有制度を実現し、指導講習会を通じてモデル校を設置する。(筑波大学等との協働) ・体育授業の全国普及を担う中央行政官を岡山市へ招聘し、小・中・高校の体育および課外活動や大学の教員育成などを学ぶ。	4 月 ↓ 3 月	カンボジア
	・研修会・講演会 ・招聘事業 (岡山県国際課助成他)	・人道援助などシンポジウムやパネル展、講演会などを開催・協力 講師: 有森代表、HG 顧問、専門派遣者、スタッフ、事務局等/ 10 回 ・インターン受入: 1 名(日本の大学生の現地研修) ・招聘事業: カンボジア人日本語教師の養成(1 名来日)	4 月 ↓ 3 月	日本 カンボジア
	・スタディツアー協力 国際協力の現場視察とボラ ンティア体験を通じた国際理 解	・実際に現地を見学し、交流することにより貧困・環境・平和・開発などの問題について理解を深める。(12 月企画 ツアー) ・ウォーキング大会で日本からのツアー参加者との交流 ・学生・団体のスタディツアー協力(高校・大学・教員組合など)	4 月 ↓ 3 月	カンボジア
	・学校教育支援(サービスラー ニング)として、総合的な学 習・国際理解・ボランティア教 育に協力	・要請に応じて学校や団体に講師を派遣(岡山 ESD 助成) 国際協力、国際交流、国際理解、開発などの実践的学習の協力を 行う。(小・中・高等学校・大学等) 実績: 20 回	4 月 ↓ 3 月	日本
	・出版／調査研究／学会発表	・「スポーツを通じた国際開発」に関する調査研究報告書 第 2 部 (嘉納治五郎国際記念スポーツ研究・交流センター委託事業) ・「カンボジアにおける教育政策に関する一考察」(体育科研究論文) ・第 2 回 スポーツを通じた開発国際会議への出席	4 月 ↓ 3 月	日本 カンボジア ジュネーブ

(2) その他の事業

定款の事業名	概要	事業内容	実施日	実施場所
バザーその他 物品販売事業	チャリティーバザーの実施やグッズ 販売・パネル展示	Tシャツ、キャップ、本などの販売やパネル展示を通して活動支援金を広く集める。これに並行して、活動内容の広報を行うとともに、国内での活動支援者層の拡大を図る。各地区で開催されるイベントにも参加。	随時	日本

事業名	アンコールワット国際ハーフマラソン／アンコールウォーキング
分類	スポーツ事業支援、組織化支援
協働団体	カンボジアオリンピック委員会 (NOC)、カンボジア陸上連盟 (KAAF)
活動概要	<u>大会趣旨</u>: ・世界に向かって「非人道的な対人地雷の使用禁止」を訴える。 ・大会エントリー費用は義手義足支援と、地雷被災者の社会復帰・自立を支援するとともに、青少年エイズ予防支援活動等に使用。 ・健常者だけでなく、障がい者も、共に走ることを通じて、勇気と希望を与える。 ・公認及び協力ツアーの旅行代金の一部とその他寄付をカンボジアのスポーツ振興に役立てる。 ・カンボジアに対する世界各国からの支援に対し、感謝と元氣なカンボジアを訴求する。 <u>テーマ</u>: 「Building a better future – Aid for children and disabled in Cambodia」 <u>主催</u>: カンボジア陸上競技連盟 (KAAF)、カンボジアオリンピック委員会 (NOC) <u>主管</u>: カンボジア陸上競技連盟 (KAAF) <u>運営</u>: アンコールワット国際ハーフマラソン組織委員会・実行委員会 <u>特別運営協力</u>: <NPO>ハート・オブ・ゴールド <u>後援</u>: カンボジア王国政府、独立行政法人国際協力機構 (JICA)、産経新聞、サンケイスポーツほか <u>協賛</u>: (株)コニシ、ステファニー化粧品、CAMBREW LTD.、Prince D'Angkor Hotel and Spa <u>協力</u>: (株)アシックス、(株)かねふく、ナカシマプロペラ(株)、両備グループ、(株)おもちゃ王国、ベネッセホールディングス(株)、(株)ライツ、(有)ハウ・エンタープライズ、(株)JTB 中国四国岡山支店、土浦市国際交流協会カンボジア研修視察団、鼓粋若衆板橋轟太鼓、Asia Life Magazine、Bridge Marketing Ltd.、ロイヤルアンコール国際病院、アンコール小児病院 <u>開催日時</u>: 2011 年 12 月 4 日 (日) 午前 6 時 30 分スタート <u>種目</u>: ハーフマラソン 21km (男女/車椅子男女)、 ロードレース 10km (男女/義足男女/義手男女)、 ファン・ラン 3km (オープン) <u>コース</u>: アンコール遺跡周回特設コース (AIMS 公認) <u>プレイベント</u>: ・アンコールウォーキング (12/2): 運営: HG、5・10km ウォーク、子ども達との交流 ・バイクラリー (12/3): 運営: Village Focus International ・前夜祭 (12/4): 運営: 観光省、HG <u>エントリー</u>: オンラインエントリー (GAA 委託)、日本 HG 代行登録、現地登録 P.M.Green、現地登録 KAAF <u>参加者</u>: 5,230 人 58 の国と地域 ※参加者、参加国ともに過去最高。(プレイベント含めると 6,044 人) (カンボジア、中国、インドネシア、インド、イラン、日本、韓国、イスラエル、ラオス、マレーシア、パキスタン、フィリピン、シンガポール、タイ、ベトナム、ブータン、スリランカ、ブルネイ、トルコ、オーストラリア、ニュージーランド、サモア、オーストリア、ベルギー、デンマーク、フィンランド、ロシア、フランス、ドイツ、ギリシャ、イギリス、アイルランド、イタリア、ウクライナ、オランダ、ノルウェー、ポーランド、スペイン、スイス、セルビア、スウェーデン、チェコ、アルメニア、スロバキア、カナダ、アルゼンチン、ブラジル、メキシコ、ペルー、コロンビア、アメリカ、コスタリカ、南アフリカ、アルジェリア、ケニア、リビア、ナイジェリア、エチオピア) <u>チャリティ</u>: US\$19,400 (カンボジア赤十字、カンボジア・トラスト、ハンディキャップ・インターナショナル、カンボジア障がい者陸連、HG) US\$275,017 (第 1 回大会 (1996) から第 16 回大会 (2011) までの合計) <u>特記事項</u>: 参加者増加によるエントリー料およびプレッジシステムでのチャリティが増加。 男子ハーフ3位は、日本人 (HG ツアー参加者)。義足の女性の参加もあった。 大会当日は、バンド演奏や太鼓演技なども開催。現地最終確認の運営は会場が従来と変わったが、問題はなかった。前夜祭の準備、運営に関しては、次年度への課題が残った。



事業名	日本語教育事業<HGむつみ日本語教室>
分 類	人材育成
協力団体	1) チェイ小学校 2) 協力小・中学校 3) 協力企業
活動理由	カンボジアの8割を占める農民は非常に貧しく、そのため、子どもを手放さざるを得ない家庭が多くあった。子ども達が成長しても就職は困難を極めており、もし、日本語が話せたならば、ホテル、レストラン、ガイドと仕事が見つかる可能性は高く、自立のために現地の多くの人々から日本語教育支援の強い要請を受けた。HG は日本語教育のための派遣教員として、2000 年 9 月から松尾睦先生をシェムリアップに派遣した。現地調査の結果、シェムリアップの最も貧しい地区の一つであるチェイ小学校内において、2001 年 6 月より無料の日本語教育を始めた。2002 年には、チェイ小学校校内に独立した日本語教室を新築して、現在では4クラスが毎日 1 時間ずつ日本語を学べるようになった。日本語教育には高等教育という理由で、助成金がほとんどなく、下記の団体の寄付で活動できている。
活動概要(本年度の HG むつみ日本語教室)	1. 人数:「ふじ組」(5 名)「ひまわり組」(6 名)、「つばき組」(13 名) 「ばら組」(46 名) 計 70 名 2. 時間:月曜日～金曜日 7 時半～9 時半、午後 1 時～3 時 3. 内容:ふじ組(日本語検定 1 級・2 級目標) つばき組(検定 3 級目標) <u>日本の学校との交流</u>(11 年目) 日本の学校からの支援物資(手作り日本語教材、手作り遊び、手作りカレンダー、手作りかばん、文房具、カレンダー等を送ってもらい、日本語教室内は日本からの心のこもった教材や掲示物で飾られており、その教材を使って授業が進められている。2008 年より岡山学芸館高等学校の高校生が研修旅行として、シェムリアップで数日滞在して、HG むつみ日本語教室や学芸館高校留学生の家庭訪問等をして研修の機会を得ている。現地での子供同士の交流や地域との方々との交流も大変温かい雰囲気となされ自分の目で見て、耳で聞いて、肌で感じているいろいろなことを素直に受け入れ大変有意義な交流になっている。  <u>現地訪問・物資支援</u> 11 月 17 日: 島根県退職教員の会 17 名が来訪、交流。レターセット等支援。 12 月 2 日: HG 有森裕子代表理事や HG ツアー参加者 75 名が日本語教室と、チェイ小学校訪問。 12 月 16 日: 岡山学芸館高校生 21 名と先生 3 名が、交流。高校生が踊りや工作などを指導しよい交流ができた。 3 月 9 日: 岡山大学国際科の大学生 16 名と小川秀樹教授の皆様の教室訪問、交流。大学生の皆様が「うらじゃ踊り」を指導してくださり大変盛り上がった。 * 上記訪問者から、支援物資を多数寄贈頂いた。  < チョンパー先生 > ① HG 睦日本語教室の補助教員、ゲエ・チョンパーは、岡山県の「国際貢献ローカル トウローカル技術移転事業」の研修員(日本語指導)として7月初旬から 11 月末間での 5 ヶ月間、主に岡山外語学院で研修を受けた。帰国後、研修の成果を生かし毎日午前、午後とも HG 睦日本語教室で日本語の指導を行なっている。 ② テン・ワンニダーは岡山学芸館高校留学中に7月に行なわれた一回目の日本語能力試験 N3 に合格し 12 月に行なわれた二回目の日本語能力試験 N2 にも余裕で合格した。実に快挙である。 ③ 姫路ロータリークラブより、日本の絵本が多数寄贈され図書コーナーを新設した。他にも企業、個人支援者の皆様より、制服、文具、日用品などの支援を受けた。  < ワンニダー箏曲部の発表会 (左) >
次期実施計画	毎年の岡山学芸館高校への留学は、2011 年度はテン・ワンニダー(5 期生)が選ばれ、ハート・ペアレント(留学里親)の支援のもとに充実した留学生活を送ることができた。2012 年度は、チュート・スライノッチ(6 期生)が決定。 彼女の留学里親も募集中。
支援団体	コニシ(株)、銀座ステファニー化粧品(株)、留学里親、岡山学芸館高校、(株)タダノ、飛鳥建設(株)、倉敷平成ライオンズクラブ、姫路東ロータリークラブ、HG 会員支援者、岡山市立福島小学校、岡山市立西大寺小学校、御南小学校、他協力校

事業名	ハート・ペアレント事業<ニュー・チャイルドケア・センター(NCCC)>
分類	青少年育成(自立支援)
協力団体	チェイ小学校 2)HG睦日本語教室
るしなが、NCCCの運営から手を引いたため、本年度からHGが運営を担うことになった。HGはシェムリアップ在住、日本語教師の桧尾先生に実務担当を依頼し、現地スタッフも増やし、新体制で動き始めた。 NCCC の意義と意味: 孤児、あるいは孤児に準ずる子供(両親、親戚が養育できない状態におちいった子供)が、安心して生活できる環境の下で、教育を受け自立できるよう物心両面から支援し良き市民としてカンボジアを担っていく人材を育成する。 居住地: シェムリアップ州プーク郡チェイ村、 生活: 道徳、礼儀、健康管理、良好な環境の保持(清掃・整理整頓)などに配慮した生活教育を行った。子どもたちをケアする態勢は、マネージャーのヴィ・タイリーとホアン・スレイマウがNCCCに昼夜常駐し、父親、母親的な存在で面倒を見ている。また、現地スタッフの桧尾も度々NCCCに行き、スタッフの相談にのっている。年長の女の子たちは、年少の子どもたちの世話をよくするし、お互いに助け合って自主的にそれぞれの分担を良くこなしている。マネージャーのエング・サレツは高齢のため7月末で退職。 支援の里子 : 2011年4月:10名、2011年9月16名(6名入所) 2012年1月:15名(1名退所)、2012年度末:16名(1名入所) 語学教育: ・日本語教育:月曜日から金曜日までHG睦日本語教室で、10人の子供達が他の子供達と一緒に日本語を学習している。能力差がかなりあるが頑張っている。指導者: 桧尾睦、ゲェ・チョンパー 英語教育;NCCCで、月曜日から土曜日まで。午前9時から10時までと午後5時から6時までの2グループに分かれて学習している。指導者:ヴィー・タイリー 情操教育: 継続してアプサラダンス(クメール伝統舞踊)を習っている。 指導者:ホアン・スライニット。絵画教室「小さな美術スクール」の主宰者・笠原知子さんのご協力により、2010年2月よりNCCCで、隔週の土曜日月2回、(2012年4月から午前10時から11時半まで)絵画教室を実施している。 子どもたちの就学進学に関しては、特に成績優秀で勉学能力・生活態度等の優れた者は高校進学対象者とする。(現在2名在学中) 衛生棟建築&補修工事、その他: ・男子寮、女子寮建設に続いて念願の衛生管理棟(トイレ・シャワー)の建築が5月末に完成した。衛生面でも、環境面でもとてもいい環境が整った。子供たちの日常の生活面でも、身の回りの環境を整えていくように、特に重点を置いた教育を実施している。 ・その他の補修工事(女子寮の雨漏り箇所の瓦葺き替え補修工事、壁塗り和え、台所改修工事、らせん階段覆い等)も行なった。 今後の予定: ・高野山真言宗とHGが活動協定を結んだため今後NCCCのハート・ペアレントとに協力予定。 ・現在、塀、門などがなく、防犯の意味から、門・塀をつけたい。小屋も修理の必要がある。 ・スタッフが新しくなったので、NCCCの経営、運営を行なうための研修等を実施したい。 ・後ろの田畑に果樹を植えて、子どもたちの食料としたい。 ・女子入所者とのバランスを考えて、次年度は男子入所者若干名を入所させたいと考えている。 支援団体・支援者: 日本国際協力財団、ハート・ペアレント、現地訪問寄付者、岡山せとうちライオンズクラブ、浦安ロータリー、HG個人支援者、大光電機(株)、銀座ステファニー(株)、バレンタインチャリティーデナー実行委員会、HG飯田クラブ	
   	

事業名	3.11 子ども animo プロジェクト
分類	緊急・復興支援事業
支援団体	避難所、被災小・中学校、仮設住宅入居者（宮城県・福島県）
活動理由 2011.3.11 に起った未曾有の東日本大震災に対して、ハート・オブ・ゴールド(HG)は、緊急救援とその後の復興支援を、HG石巻クラブと、HG福島クラブと連携して、協力者を募りながら活動した。復興の最も大きな柱となるのは「教育」である。昔からいつの時代も、日本の発展を支えたのは「教育」の力であった。HGが行ってきたカンボジアでの活動も、人材育成、教育である。明日を担う子ども達と、そしてそれを支える現場の先生たちが元気になれるよう、1 日も早い復興を願いながら「3.11 子ども animo プロジェクト」として支援活動を進めている。	
本年度の活動概要 支援対象： 宮城県避難所、石巻市立蛇田小学校、東松島市立野蒜小学校、 湊小学校避難所など、福島県北保健所、飯館村、南相馬、波江町 避難者、 いわき市立中央台北小学校、いわき市立第 6 小学校他、 ●緊急支援 ① 水、衣類、ランドセル、文房具、化粧品、食料品、生活用品など、現地からの要請にて支援、必要な場所に届ける。 ② 被災地における体育授業「体力向上作戦」への協力 ③ 会員による現場でのボランティア活動(4 月～9 月、第 10 次隊まで派遣)がれき撤去、ヘアーカット、学級園整備、学校・避難所片付け、清掃など ④ 避難所で使用する車貸与 ●復興支援(学校復興(宮城県) 避難所支援(福島県)) ⑤ テレビ、DVD、ミシン、遊具、スポーツ用品、文具など、教材・教具支援 ⑥ サマーキャンプ(8 月 19 日～21 日、山形県前森高原、58 名参加)開催⇒ ⑦ アイスランドよりの手編みのセーター、マフラー、手袋など(480 点)配布 ⑧ 絵画(Parasa & Dinky Dinos、Rainbow)贈呈(野蒜小学校) ⑨ 体力づくり(体育授業) たすきを繋いで「駅伝日本一周チャレンジラン」(野蒜小学校・蛇田小学校) ⑩ カナダガーデン寄贈(蛇田小学校) ⑪ 物資支援(仮設住宅、学校、病院などに生活用品を支援) 絵画贈呈⇒ ●報告会・講演会 ⑫ 「石巻の小学校教員が語る 3.11」講演会(岡山にて木村先生) ⑬ 有森代表講演会、雑誌などで、活動報告(多数) ⑭ 東日本大震災支援講演会(カナダバンクーバーにて有森代表、志澤理事) ●交流事業 ⑮ 岡山の小学校との交流(ビデオレター、手紙の交流) ⑯ HG会員スタディーツアー(3 月 12 日～15 日)支援学校など訪問、交流	
次年度の実施計画 ・ HG石巻クラブ、HG福島クラブと協力して復興支援継続 ・ 被災学校である野蒜小学校、蛇田小学校、渡波小学校の復興支援の継続 ・ たすきを繋いで、駅伝日本一周チャレンジラン(体力づくり) ・ 福島県被災学校、仮設住宅住民への支援 ・ サマーキャンプ 支援物資配布(福島) ⇒ ・ いつでも、どこでも出来る、体力づくり	
支援・協力団体 日本警察・消防スポーツ連盟、日本警察・消防スポーツ連盟カナダ、宝積寺、淀川国際ハーフマラソン、つもりラン、柏崎マラソン、(株)おもちゃ王国、Kind & Kegel Eichwalde e.V(ドイツ)、アイスランド日本協会、Japanska vinir islandi(アイスランド)、アイスランド青少年連盟、兵庫県立神戸甲北高等学校、仙台ゾンタククラブ、協力小・中・高校、(株)ステラ、(株)翌檜、Carshop.TOM、(株)日本フローラルアート、医療法人大谷会、銀座ステファニー化粧品(株)、(株)JSMコンサルティング、大光電機(株)、(株)フレッシュ、HG個人支援者	



事業名	カンボジア王国 小学校体育科教育振興支援事業（JICA 草の根技術協力事業） カンボジア王国 小学校体育科教育行政官招聘事業（CLAIR [岡山市]）
分類	教育支援、組織化支援
支援団体	カンボジア教育省、地方教育局、モデル小学校、モデル養成校

活動理由

カンボジアでは 1970 年代の内戦で、施設、人材、教材等、教育システムが根底から破壊された。パリ和平協定以降、教育インフラの再建が進められているが、人間開発の根幹を担う情操教育は殆ど着手されていない。また、当該国では 研究機関が未開発であるにも拘らず、未だ教育施設整備に偏った教育開発に留まっている。さらに、国家の未来を担う子ども達の健康・健全育成を保証する上で最も重要な体育科は、週 1 回、朝礼時に行われる簡易運動のみに留まっている。そこで、体育科授業の全国的な普及に向けて、基本的な普及基盤を確立するために、「中央/地方教育行政官の体育担当者を育成してモデル校を強化」しつつ、「現場教員の WS および巡回指導を通じて人材を育成」するなどして「普及体制を整備」することで、「指導書を用いた統一的な体育科授業を行う」ための早急な対応が、望まれている。

以上のように、本事業では 教育の根幹である初等教育で、体育指導に関わる人材の意識と知識を向上させる等、人材育成を図ると共に、国内状況を把握するための調査手法を導入することで、指導要領と指導書の改訂ならびに普及の持続可能性を高めることを目的としている。

本年度の活動概要（本年は小学校体育科教育振興支援事業の 3 年目）

- JICA-筑波大学との連携事業によって下記の支援内容を達成した。
- ① ナショナル・トレーナー(NT)の継続的な育成、モデル州および州内中心校の調査および選出。
- ② 各地域(R5)の中心小学校にてNTによる対象校の教員に対する体育 指導講習会(体力測定を含む)を開催する[小学校教員の育成]。
- ③ 首都で NT による全教員養成校の教官に対する体育指導講習会(体力測定を含む)を開催する [体育教官の育成]
- ④ 各校の講習会参加者による各校同僚教員に対する伝達講習会を開催し、技術および取得情報を共有する。
- ⑤ 各地域の中心校を巡回し、モニタリング調査やフォローアップ指導を通じて、小学校体育授業の体制を整備し、人材を育成する。
- ⑥ 対象校で体力測定を実施し、測定結果の回収と集計の制度を確立する。
- ⑦ トレーニングを受けた中心校で導入校を招いた公開授業を実施し、体育授業の質を確認し、体育科認定校を設置する。
- ⑧ モニタリングと認定評価の全国巡回を通じて体育研究指定校を設置する。



クラチエ・クロン小学校(陸上)の NT モニタリング風景



筑波&HG 専門家による NT のトレーニング風景

本年度は、小学校体育科教育振興支援事業の 3 年目であった。1) モデル校選出の手法および基準、2) 地域巡回の手順および基準、3) モニタリング手法および基準、4) 体育授業評価手法および基準、5) 体育環境評価手法および基準などの全項目に関する技術が移転された。その方法は、HG スタッフによる OJT および直接指導ならびに専門家 WS 等を通じて、段階的な技術移転と権限委譲を行った結果、これまでの学びを受けて 90%以上の技術移転が完了した。

次年度の実施計画

- 日本外務省との連携事業によって下記の内容を支援事業を予定している。
- ① 指導書改訂仮案の作成。
- ② 指導書改訂仮案を各方面に配布し、関係者による指導書改訂協議会にて討議
- ③ 協議会の内容を鑑みて指導書最終案を作成し、教材開発局にて最終校正
- ④ 教材開発局による最終校正後、教材認定委員会(EMAB)による認定審査
- ⑤ EMAB で公式認定された指導書を印刷して、全 24 州 6,850 の小学校に配布
- ⑥ 配布状況を確認した後に最終報告会にて事業内容を広く一般に開示

来年度は、2006～2009 年度事業で作成し、2009～2012 年度事業で改訂し続けてきた指導書を最終校正して、教育省の公式な体育科教育の指導書として認定し、全国の小学校に配布することで、全国的な体育授業を目指す。



中央行政・地方行政・教員養成校の 3 者協議会の討議風景

支援・協力団体：（独立行政法人）国際協力機構/JICA、国立教育政策研究所、筑波大学、桐蔭横浜大学、筑波大学付属小学校、東京学芸大学附属小学校、岡山県庁、岡山県大学スポーツ国際交流推進機構、岡山市立御津中、石井中学校他、東京都、岡山県、岡山市、静岡県、長野県の小・中学校、イフグループ、長浜ローター、NTT グループ 駅伝クラブ、エコースポーツ、私の部屋安城店、チャリティ少年サッカー大会 in 三河、他

事業名	カンボジア王国体育科教育関係者短期招聘事業 (CLAIR 自治体国際協力促進事業(モデル事業))
分類	スポーツ事業支援、組織化支援
協働団体	岡山市
協力団体	カンボジア教育青年スポーツ省学校体育スポーツ局
活動概要 HGがカンボジアで行っている同国小学校体育科教育振興事業の一助として、岡山市と協働で「自治体国際協力促進事業(モデル事業)」として実施。 同国教育省の体育科の担当行政官(NT:ナショナルトレーナー)と担当局長の8名(通訳を含む)を岡山市に招聘。小中高校の保健体育授業をはじめ、大学、行政機関、地域スポーツ施設での視察研修を行った。 【招聘者】 カンボジア王国教育・青少年・スポーツ省 学校体育教育スポーツ局 局長 PRUM Bunyi プルム・ブンジー、 副局長 DOK Kirirath ドク・キリロアット、同 MANG Vibol マン・ヴィボル、 企画部主任 CHHIM Samboeun チュム・ソンブン、教育課程・施設部副主任 MANN Setha マン・セタ、 小学校部副主任 MIV Sophal メウ・ソパル、中学校部副主任 SRUN Leang スルン・リエン、 HGアジア地域事務所 プロジェクト・リーダー KEO Sochetra ケオ・ソチエトラ (1)事業の目的 カンボジアでは既に作成した指導要領、指導書に基づいて保健体育教育の普及がすすんでいるが、それに携わっている行政官のなかには、派遣された専門家から指導、研修を受けてはいるが、未だに実際の授業を受けたことも、見たこともない者もいる。このため、実際に日本の保健体育教育現場を見てもらい、研修を受けてもらうことで、より効果的・効率的に技術移転することが可能となり、その結果カンボジアの保健体育教育を支える人材育成を図ることができる。また、カンボジアに於ける体育科教育の普及制度が再検討される。 (2)事業の内容 5月19日 事前研修(プノンペン) 5月30ー6月10日 視察研修(岡山市) 岡山市立中山小学校(運動会見学)、同福島小学校(体育授業・施設見学)、 同芳泉中学校(体育授業・施設・部活動見学)、海の学校(施設・活動見学)、 岡山大学教育学部附属小学校(体育授業見学)、岡山大学教育学部保健体育講座(受講)、 岡山学芸館高等学校(体育授業・施設・部活動見学)、岡山外語学院(見学)、 きよね夢てらす(総合型地域スポーツクラブの視察、活動参加)、 岡山県教育委員会保健体育課(レクチャー)、HG活動報告会参加、 岡山市長表敬訪問、岡山県関係部課表敬訪問、岡山・倉敷視察 6月28日 事後研修(プノンペン) (3)成果 研修員は、カンボジアの学校における体育スポーツ活動の全般業務(体育科指導要領改訂、指導書最終案調整、学校体育の振興と普及、ネットワーク確立、体力・体格・体育環境調査実施、スポーツ全国大会)を行う立場にあり、岡山市での研修は直接的に国の政策や計画に反映される。研修資料についても、帰国後、他の行政官らと共有しており、今後も活用することができる。このように社会に還元される確立は高く、非常に有効である。 また、岡山市のESD(持続可能な開発のための教育)のプログラムにはHGも参加しており、この事業もそれに資する事業として評価されている。 本事業は、自治体国際化協会の平成23年度優良事業に選ばれ、HGは事例報告会に参加する予定。	
助成・協力団体企業	(財)自治体国際化協会(CLAIR)、アジアの風研修センター、両備タクシー、 既述の研修受入機関



事業名	国際理解教育(サービスマーケティング)
分類	青少年育成(研修・啓発)
協力団体	小学校・中学校・高等学校・大学
活動概要 学校が取り組んでいる総合的な学習や、国際理解教育、ボランティア教育などに協力する。子ども達が、世界の現状(貧困・環境・平和など)に目を向け、グローバルな視点から、国際理解(異文化理解)を深めると共に、自分理解の助けとなるような活動とする。学習方法は、講演、IT 機器による交流(メール、スカイプなどを利用)、ビデオ、文通、カンボジアの留学生・研修生などの話を聞く、現地を訪問するなど、できる限りの手立てを利用。そして交流した中で、異文化理解、持続可能な開発などについて考え、自分達の可能性と力に目覚める。 1)スポーツ施設・物資支援 (日本の学校からの寄付金はまとめて施設や教材に使用) * スパイリエン州スパイリエン郡ピートウヌー小学校へスポーツ施設支援(バスケット、バレーコート、砂場、雲梯、鉄棒、マットなど)他、物資として、バトン、ボールなど贈呈 * HG陸日本語教室とNCCC へは、生徒から教材・文房具・バッグ・カレンダー・石鹸など贈呈 * ツアーの場合は、事前に必要なものを聞き、現地に支援物資を持ち込んだ。 2)交流支援 * 岡山学芸館高校(希望する学生が修学旅行の訪問先の一つとしてカンボジアを訪問) ⇒ * カンボジア青少年スポーツ省の担当官 8 名が岡山市で研修(自治体国際化協会) * 岡山大学の学生 16 名が活動地域を訪問し、研修、交流 3)「3.11 子ども animo プロジェクト」として、東日本大震災被災学校の復興支援活動 大きな被害を受けた宮城県の東松島市立野蒜小学校と石巻市立蛇田小学校の学校復興を支援。岡山県の小・中学校と被災地の学校を結んで交流、支援活動実施 8 月夏休みに、被災児童対象の「遊ぼう! 学ぼう、サマーキャンプ」を実施 11 月 12 日蛇田小学校の木村明子先生による「被災地の学校から見た 3.11」講演会 3 月 12 日～15 日支援学校訪問。野蒜小には、絵画贈呈とランニング指導。蛇田小には桜を中心にカナダガーデンを寄贈。岡山の小学校から来年度の手作りカレンダーを渡す。 ⇒ 4)授業協力 HGスタッフ、カンボジアからの留学生、研修生などが、小・中学校で出前授業を実施(年間 20 回実施)。自分たちでできる国際協力について相談に乗りながら体験、交流に協力	
成果 年間を通じて、途上国にかかわることで、それぞれが、貧困、環境、食料、人権、平和などが、どれもつながりをもって関係している事を知り、自分たちで出来る事があることを実感した。また、自分たちの環境、教育、家庭、地域などに目を向け、持続可能な社会を、協力して作ることに向かう。また、自分たちが支援した物資などが、現地に渡され喜ばれたことを確認でき今後もできる支援活に取り組む動機づけとなった。高校生には将来の進むべき道にも影響を及ぼしたようだ。 児童たちからのプレゼントを渡す ⇒	
参加学校 など 関係学校:①岡山市立平福小学校 ②岡山市立福島小学校 ③岡山市立西大寺小学校 ④岡山市立御南小学校 ⑤岡山市立野谷小学校 ⑥岡山大学附属小学校 ⑦岡山市立石井中学校 ⑧岡山市立御津中学校 ⑨岡山市立建部中学校 ⑩岡山市立芳泉中学校 ⑪岡山市立京山中学校 ⑫岡山学芸館高校 ⑬順天中・高校 ⑭東京都千早高校 ⑮沼津高校 ⑯岡山大学 ⑰カンボジアチェイ小学校内HGむつみ日本語教室 ⑱カンボジアチャイルドケアセンター 他	
今後の計画 2012年度もカンボジアから岡山学芸館高校に留学予定。カンボジアから日本へ研修に来る人も、できる範囲で学校訪問をして、直接顔の見える交流の機会を増やす。学校が取り組む「持続可能な開発のための教育」に協力して、実践を通して地球規模で未来を考える人を育てる。	
助成団体 岡山 ESD 協議会、HG 個人会員、岡山市、自治体国際化協会、つくば大学体操部、JSM コンサルティング(株)、	



児童が育てていける庭として、
カナダガーデンを贈呈

